

## 新武蔵野クリーンセンター（仮称）建設事業 説明会 議事要旨

日時 7月27日（土）午前10時30分から午前12時  
場所 緑町コミュニティセンター  
出席者 武蔵野市 環境部クリーンセンター 木村参事、和地所長、三浦係長、馬場主査、神谷主任、平松主任  
日建設計 小平 荏原環境プラント 今井  
参加人数 20名

質問 新クリーンセンターは、ごみを少なくして燃やす施設を小さくすることですが、施設全体の床面積の合計が既設より増えているのではないのでしょうか。ごみがどんどん減って、最終的にはクリーンセンターのような施設がなくなるものと考えていたのですが。

回答 焼却炉の規模は小さくなっていますが、既存施設を再利用して整備する環境啓発施設「エコプラザ」も含めた施設全体の床面積は増えます。ごみ減量は今後も継続し、ごみ処理の広域化や分散化等については、ごみ処理基本計画の改定にあわせて検討をすすめます。

質問 ごみ発電が足りない時はガスコージェネレーションシステムを使わず、電気を買ったらよいのでは。常時ガスコージェネレーションシステムを使用すると不経済であるし、排出ガスも増えるのではないのでしょうか。災害時に備え、市役所への電力供給もできるようにとの考えがあるようですが、最低限の通信設備等の電気をまかなう設備で良いのでは。そもそも、市役所への電力供給は災害時あまり役に立たないと考えます。大震災の後、どこの自治体も1～2年で復活しています。市役所が停電になっても災害後の復旧に影響はないと思います。むしろ、電力供給をするなら病院にすればよいのでは。大震災のときは都市ガスが止まるので、このシステム導入の意味がないのでは。

回答 東日本大震災以降の電力需要の状況を踏まえ、災害時の対策として、非常用発電設備を常用でも使用できる発電設備として導入することにいたしました。常用のガスコージェネレーションシステムと言いつても、常時このシステムを活用し続けるわけではありません。新施設は2炉の焼却炉を設置しますが、1年のうち約半分が2炉運転、もう半分が1炉運転でメンテナンス等のための全炉停止もあります。1炉運転時、全炉停止時にガスコージェネレーションシステムを活用することを計画しています。また、夏場の電気需要が多い時にガスコージ

エネレーションシステムで一部電力を確保し、買電のピークカットをすることで安い基本料金で契約することができます。エネルギー市場の動向も確認しながら、適正な運転管理を行うことでガスコージェネレーションシステムの活用によるメリットを経済的にも最大限に活かしていきます。病院への電力供給については、検討いたしましたが、電気事業法の関係で公共施設以外に電力を供給することができません。また、ガスは災害に強いインフラと言われています。東京ガスからも阪神淡路大震災、東日本大震災においてガスは止まらなかったと聞いています。さらに今回は耐震性の高い本管からガスを受給します。また、バックアップ燃料として一定程度の灯油も備蓄します。

質問 100年～200年に1回の地震のためにガスコージェネレーションシステムを設けるのはいかがなものでしょうか。ただでさえ焼却炉から排ガスが出ているのに、電気需要をまかなうために、ガスコージェネレーションシステムで更に排ガスを排出するという発想が理解し難いことです。非常用の発電機が必要なのであれば小型の発電機で対応すればよいと思います。夏場のピークカットのためという話もありましたが、夏場は市役所などの公共施設は冷房を入れなければよいのではないのでしょうか。

回答 小型の発電機では工場の運転ができません。武蔵野市の防災計画においても、震災後の3日間に市がどのように対応するかが重要としており、このガスコージェネレーションシステムが災害発生直後の停電時には、重要な機能を果たすと考えています。排ガスについては、周辺の公共施設を含め総合的に考えると、CO2排出ガス換算においてガスコージェネレーションシステムを活用した方が低減すると考えております。また、市役所などの公共施設において、最大限の省エネルギー対策を行っています。

質問 新クリーンセンターについて、周辺住民以外は関心が低いように感じています。最近引っ越してきた市民も関心度があまり高くないようです。全市民への啓発活動、市民の意識の構築は今後どう取り組んでいくのでしょうか。

回答 全市民への取り組みは継続して実施していきます。市報7月15日号の一面に新クリーンセンターの記事を掲載しています。本年5月から6月には、クリーンむさしのを推進する会の地域集会において、市内12か所のコミュニティセンターを巡回して新クリーンセンターの説明を

行いました。また、環境フェスタや環境講座等を活用し、クリーンセンターに関心がなかったような市民にもクリーンセンターを訪れる機会を提供していきます。また、本年の6月、7月に無作為抽出で2000人の市民にごみに関するアンケートを行いました。更に、このアンケートの回答者のうち、希望者にお集まりいただきごみに関するワークショップも開催しました。市民50名程度の参加があり、活発な意見交換がされました。多摩地域において、ごみ排出量が武蔵野市はワースト3に入ると言われていますが、武蔵野市民は本当にごみを多く排出しているのか、ごみの実態調査を行っています。小規模事業者のごみは家庭ごみと一緒に排出されているので、実は小規模事業者のごみの割合が高いのではないかと推測できます。このような実態や市内7万世帯のうち半分の単身世帯のごみの排出がどうなっているのかなどについて調査を行い、市民にどのようなごみ減量をお願いしたらいいのかを考えていきます。

質問 新クリーンセンター用地の北側部分の周辺整備、特に緑町コミュニティセンターについてはどうなるのでしょうか。

回答 今年度の周辺協議会において、建築デザイン、煙突デザイン、エコプラザなどについての検討を行う予定ですが、さらに次の周辺協議会において、周辺整備についての議論を行うことを考えています。また、第二期周辺協議会の報告書には、緑町コミュニティセンターリニューアル計画を参考資料として掲載しております。今後は、この報告書について、庁内推進本部で議論をしていきます。

質問 新クリーンセンターの運営管理において、市はどのような立場で対応するのでしょうか。

回答 今回の事業で採用したDBO方式は、施設の整備と施設完成後の20年間の運営管理を一括して発注する方式で、20年間の管理運営は荏原環境プラントが行います。DBOでは修繕計画が臨機応変に対応でき、運営の効率が上がります。しかし、運営を事業者任せにするのではなく、責任の所在は市にあるので、しっかりとしたモニタリング体制を整え、運営管理のモニタリングを行います。第三者機関によるモニタリングの実施も検討しています。また、新クリーンセンターの運転状況の運営協議会への説明は従来通り市が行います。

質問 敷地内の藤棚はどうなるのでしょうか。撤去するのであれば、お別れ

の会を開催したらどうでしょうか。

回答 だいぶ刈り込む必要があるので小さくなりますが、来年の1～2月に市の公園に移植する予定です。

質問 運転の情報開示や環境報告書は新施設移行後どうなるのでしょうか。

回答 新施設移行後も市が行います。

質問 周辺整備のまちづくりを横断的な組織で対応してほしい。クリーンセンターとスポーツ施設を総合的に検討してほしい。緑町3丁目の200世帯に負担がかかっているので、地元の気持ちを全市民へPRして、共有してほしい。

回答 周辺のまちづくりは庁内推進本部において調整を行っていきます。また、周辺整備は平成31年までにおこなっていきます。全市民へのPRも継続的にすすめていきます。

質問 クリーンセンターの南、西側の道路に駐車が多く、歩行者や自転車に危険があるが市で対策が取られていません。

回答 市の交通対策課と協議し、できることから対策を行っていきます。